日刊 動労千葉

86. 6. 2

No. 2255

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二(22)七二〇七

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉砕！

3万名ワッペン処分(5/29)弾劾

凶暴な国労屈服＝解体攻撃に、今こそ起って反撃を！

国鉄当局は五月二九日、国労組合員・三万人に対して「戒告・訓告処分」を通告してきた。これは国労が四月十日から三日間行ったワッペン闘争への不当処分である。「国鉄法案」の国会審議、それに先だってすでに、差別・選別・首切りが先どり的に不法強行されているこの時期を狙って出された今回の大量不当処分攻撃こそ、当局と動労革マル他の裏切り集団の明々白々の国労解体のための攻撃に他ならない。怒りを力にかえて、全国から反撃にたとう。

奴隷の道を拒否した国労組合員

一月十三日「共同宣言」に当局・動労・鉄労らが名を連ねた「共同宣言」は、①諸法規を遵守しストはやらない、②お客様に不快感を与えないためリボン・ワッペンをつけず名札を着用する、③余剰人員対策の目標達成に積極的に取り組む、というものである。

リボン・ワッペンをはずし、名札・ネクタイを着け、遮光幕を開け、すべての既得権を棄げだせというのだ。

ストを放棄し、職場の戦闘力・団結力を破壊し、国鉄当局の忠実な奴隷になることを強制している「共同宣言」をどうして受け入れることができるか。

動労千葉・国労・全動労がこの「奴隷への道」を拒否し、闘う道を選んだことこそ、唯一の正しい姿勢なのである。

自民党労働運動を目指す裏切り集団＝動労革マル

動労・鉄労・全施労・真国労は、国労十八万組織を解体し、十二万名の首切りを行い職場から放り出し、運転職場では動労、営業では鉄労・真国労、施設では全施労で延命せんと画策してきた。この仕掛人が動労革マル＝松崎である。国労からの脱退＝動労加入、真国労のデッチあげ、自民党機関紙『自由新報』（四月二九日号）での転向宣言、広域配転、企業人教育、すべて松崎の悪企みだ。

今、松崎は何んとしても国鉄法案をとおそうとしている中曽根・三塚と手を組んで、国労を攻撃し、総評・社会党の足並みを乱し、分裂・解体状態をつくりだそうとしている。断じて許すな。

今、反撃しなければ、国労は死ぬ

―全国の職場は、「起って闘う」方針を求めている―

しかし、同時に、このことは、国労中央が分割・民営化攻撃に対し、具体的積極的にたたかう方針を提起しえないまま、ズルズルと後退していることに問題があり、国鉄労働者の中にたたかわずして敗北を強制し、不安・失望・無力感を生みださせていることも重要な事実であるといわざるをえない。

動労革マル＝松崎は、卑劣にもそこにつけ入ってきているのだ。

しかし、ワッペン闘争にみられるように、全国鉄職場の労働者は真にたたかう方針を待ち望んでいる。

処分の出された同じ五月二九日に開催された国労中央委員会において、国労を解体せんとする当局および真国労を含めた四マル生組合との対決を避けて「選挙闘争」と「要求づくり運動」にすべてを解消させてしまう国労中央の方針に組合員からの批判が噴出したということも当然である。

動労千葉の道か、動労革マル＝松崎の道か、とるべき道は二つに一つしかない。中間の道は断じてない。今、起ち上がらなければ、それは明らかに、「座して死を待つ」道以外の何ものでもない。全国全職場に満ちあふれる怒りを総結集し、今こそ総決起しよう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！